

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.47

二〇〇八年一月五日発行

川崎市幸区古市場 2-109
京浜協同劇団内
TEL 044-511-4951
郵便振替 00250-3-18369

劇団の五〇年の歴史が浮かび上がってきた

——「今、平和をおもう コンサート」を終えて

西川 日女子

五月から数回の実行委員会を経て、八月三十一日の「今、平和をおもう コンサート」は幕を開けました。当初はなかなかイメージがわかなかったコンサート

の中身が、次第にプログラムが決まり演出プランが示されるにつれ、はつきり見えてきました。劇団員とその仲間たちが歌う歌の練習の中で劇団の五〇年にわたる歴史が、しぜんと浮かび上がってきました。

五〇年の重みを改めて感じました。安達さんの合唱指導は的確でうたの意味もよくわかり、私も久し振りに合唱する楽しさを味わいました。唯一の気掛かりは、当日お客様が来てくださるだろうか？ ということでした。「新かながわ社」に「各地の催し物案内」欄への掲載を依頼し、初めて清水記者の取材を受けました。不慣れた実行委員長としては、これが一杯でした。幸い、出演者、スタッフ全員が可



「今、平和をおもう」の舞台①



「今、平和をおもう」の舞台②

能な力を全部出し切って素晴らしいコンサートを作
り上げることができました。来場者も九五名、盛会
でした。
皆様、おつかれさまでした。お客様をはじめ多く
の方々のご協力でこの企画が無事できましたこと
に、改めて心よりお礼申し上げます。どうもありが
とうございました。

（「文化の仲間」世話人・実行委員長）

もつとたくさんの人に 聞いてもらいたい

「今、平和をおもう」を聞いて

板垣 けゑて

先月の平和コンサートのことをパソコンに向かい振り返ると、あの時感じた色々な感情が蘇ってきた。

コンサートの歌の中には、私が幼いころから、なんとなく耳にして、鼻歌で歌えるような歌も流れていました。劇団で何かのたびに聞いていたというものもあるけれど、母が歌っているのを聞いていて覚えた、という感じもあります。

1部の鈴木たか子さんの演奏で、ピアノの生演奏を聞く機会が普段あまりない私には、とても贅沢な時間でした。

「ピアノソナタ 月光」においては特に感動しました。演奏の途中、真ん中の楽章あたりで、ミスをしたのか「すみません！もう一度やらせてください！」と再びはじめから弾き始めたのには、とてもびっくりしました。一瞬なにが起きたのか？という会場のなかで私は、言わなかつたらミスをしたのかも分からなかつたのにく！と思いつつ、それ以降はおこがましくも内心では「今度こそ最後までがんばって！」という気持ちで聞いていました。ビックリした出来事ではあつたけれど、鈴木たか子さん

の、一つの演奏にかける情熱を感じました。演奏が終わったときは、感動とともに、ホツとしている自分がいました。

2部では、たつの素子さんの幼いころの思い出と、歌を掛け合わせた「おもいで」が印象的でした。涙ながらに響く歌声は、音や発せられる言葉、だけでなく、たつのさん自身の内側から滲み出てきているものが、聞いている私の側に強く伝わってくるものがありました。どう表現していいのか分からないけれど、一つのお芝居を見ているかのような、とても濃い強烈な印象を受けました。

また、安達さんの現代音楽的（例えば違っていらすみません）な曲調は、いつ聞いても感動してしまいます。今回のたつのさんとのコラボレーションでは、静寂の中を、作品の世界へゆっくりと誘導しているような絶妙な緊迫感が漂っていました。そんなお二人の独特の世界に、私は終始前のめりになって聞き入っていました。

3部では、京浜の皆さんと、劇団に関わる皆さんの合唱でしたが、特に印象にあるのは「さつきまつりのうた」です。なぜなら、去年死んでしまった猫のことを急に思い出したからです。その猫は、「文化の仲間の会」の須田さんからいただいた猫



「今、平和をおもう」の舞台③

で、猫を飼うきっかけになったのがさつきまつりだったのです。さつきまつりに須田さんが連れてきていた子猫たちに一目惚れして飼う事になったわけですが、当時の事を思い出した時、とても懐かしく暖かい気持ちになりました。

また、3部で元気な歌をうたっている時の「歌詞や音程が多少違つたつてどうつてことない！」という、皆さんの雰囲気がとても良くて、思わず笑つてしまいました。どれもそれぞれに思いが詰まつていて、馴染みのある歌を聞けること、昔の芝居の一部に直に触れられることは、とても幸せなことであるし、もつと、たくさんの人に聞いてもらいたいと思えました。

「この日、この地で、 この人々と」

安達 元彦

この団是（こんな言い方あるのかな？「国是」「党是」の「ゼ」のつもり）が、久しぶりに現前した感
を深くしました。

まず、なんといってもこの日の主役であった合唱
隊。「京浜協同劇団とその仲間たち」という名称に
いつわりがなかった。「京浜協同劇団」は自分たち
だけであるのではなく、「仲間たち」は京浜協同劇

団を必要としている——そういうことが、うたい交
わす声から聴き取れたと思います。

稽古が楽しかった。どの歌も劇団の古手には久し
ぶり、若手には初めて、仲間たちにも馴染みのある
ものではなかったでしょう。なのに、たとえば「争
議団ブルース」——ぼくは、当初、この歌は劇団古
手の男だけだろうと思っていました。ところが、稽
古しているうちにいつの間にか佐々木勝男先生がは
いつて一緒にうたっていられた。うれしかったです
ヨーツ！ そういうことがいっぱいありました。「炉
あかりのうた」——ぼくにとっては長年の幻の歌。
作曲者の石渡健司さんに稽古に来てもらえてよかつ
たけれど、本番不在がちよつと残念。稽古とはまた
一味が違ったものになっていたのにネ。

ゲストのお二人もやっぱり「この日、この地で、
……」だったと思いました。

鈴木たか子さん（ピアノ）。あの『月光』の演奏は、
ベートーベンでもなく、曲でもなく、まさに「鈴木
たか子」その人と聴きました。それも、京浜協同劇
団との三十年間あつての「鈴木たか子」といって
いいかも。場所（稽古場）のたたずまいが醸す空気
が心裡に与える影響も大きいんじゃないですか？
あの日の鈴木さんは、タタの鈴木さんではなく、「こ
この日、この場所」ならではの鈴木さんでした。同じ『月
光』でも、場所や主催が変われば、また違った演
奏になるでしょう。（当たり前ですが……）



コンサート「今、平和をおもう」の舞台④

たつの素子さん（唄）。幼い日をすごした町（尼崎）
とダブルイメージとしての川崎。また、自身が劇団
活動（当時「統一劇場」、現「NPO現代座」）をは
じめたばかりの頃出会った人たち。この日のたつの
さんの目には、前にいる人たちが「京浜協同劇団と
その仲間たち」というよりは、「川崎に生きる人たち」
と映っていたのかもしれない。そして、幼いころか
らうずきつづけ、生きること（うたうこと）を一番
底から突き動かされてきたものを、今この人たちに
聴いておいてもらわなくては、という気持ちがよく
伝わるものであつたと思います。

集いあう者ひとりひとりが、お互いをかけがえの
ないものと思いあえる関係をつくらうとしていく行
為の中で、平和をつくる底力は培われていくのだと
したら、やっぱり「この日、この地で、この人々と」
だね！（二〇〇八年九月二五日）

（音楽監督／「文化の仲間」会員・作曲家



コンサート「今、平和をおもう」の舞台⑤

京浜の演劇・戦後編 その序章⑧

逆流が激しさを増す中で 自分の芝居を探しまわる

須田輪太郎

一九四九年は、国政選挙の公示で年が明けた。ボクは選挙権を得て初めて、衆議院議員の候補者に投票したが、三百を超える保守党の議席獲得に対して社会党四八、共産党三五という選挙結果だった。

川崎市長金刺不二太郎氏と共産党の春日正一氏の対談が中央公民館で開催されて満員の聴衆。入館出来ない人のために、屋外スピーカーで放送された。しかし、競馬場の設置と公営ギャンブルの是非についての討論で、春日新議員の反対意見に対して金刺市長が「東京・埼玉・千葉の競馬ファンの方々にお金を落してもらおう。川崎市民の皆さんはなるべくやらないようにく〜」と喋って、大笑いと拍手が起った。政治も行政もこういう老獪さと詭弁で成り立つ世界なのかと、妙に感心したことを覚えている。

選挙で社共両党が一定の議席を獲得し、闇市も姿を消して、市民生活はやや安定したかに見える世相となったが、「共産主義の防壁」の日本国造りがGHQと日本政府の手で着々と進められ、新憲法無視の「再軍備必要論」を声高に唱える政治家が増え、吉田首相は「講和後も米軍駐留を望む」と語った。

五年前に「米英撃滅」を絶叫した政治家が、共産主義の侵略から国を守る愛国心を持ってと演説する。

この時期のボクは、出勤すれば配置転換の話をされる国鉄大井工場に嫌気がさし、プロの役者になる密かな願望を抱いて、芝居見物をしまくっていた。

森本薫・木下順二・加藤道夫・真船豊・川口一郎・オニールなどを上演する、民芸・文学座・俳優座・新協劇団・薔薇座と、作者も出し物も分別することなく、読書なら乱読のような観劇を続けた。

二年前、東自協の職場作家だった山田時子の「良縁」を劇団民芸が上演し、新協劇団の「人間製本」は、やはり職場作家の鈴木政男の力作だった。久保栄作「火山灰地」俳優座公園は、壮大なスケールと硬質なりリズムの描写に圧倒されたが、到底ボクが骨肉化できる作品世界ではないと思った。

森本薫作「女の一生」、岸田国士作「歳月」、川口一郎など劇作派の芝居は、オレとは住む世界の違う人々をややくしく描いて退屈してしまうし、新協の「人間製本」は親近感をもてるものの、「太陽のない町」と同じ世界を描きながら、その簡略版といった感じで物足りなかった。

自分の身の丈に合って揺す振られる芝居に出会えたら、その劇団に入れてもらって役者をやりたいと漠然と考えていたのだが、それは簡単なことではない。さりとて俳優養成所のようなアカデミズムには馴染めないし、反撥したいような気持ちもあった。

団体等規制令・二八万人が整理対象となる公務員定員法の制定施行・国鉄も十万人以上の解雇を発表。東京都公安条例反対のデモが警官隊と衝突、橋本金吾青年が死亡するなど、官公労系の労働組合を潰す狙いでの法規が矢継ぎ早に施行されるのに対して、国鉄ストや人民電車の走行など国鉄労組中心の反対闘争も激しさを増す。国労の一組合員としての「後ろめたさ」はあったが、ボクの芝居見物は続いた。

「人民電車」というのは、国電ストが波状的に続く六月十日。国労東神奈川車掌区分会が中心になって、東神奈川〜八王子間の横浜線を組合管理の電車が走った。GHQの厳命で国電ストとともに中止となり、労組員と支援者五十人以上が検挙され、横浜市の加賀町署や寿署に留置された事件。

久しぶりに、陣ノ内鎮氏から呼び出された。十人ほどの集まりだったが、黒澤・萩坂・大橋喜一・細川という国鉄の人、鎌倉のひとみ座の宇野君（初対面）、それにボクというヘンテコな顔ぶれだった。

「人民電車が走ったという快挙を、自立劇団と市民劇団の力で「構成劇」にして県内各地で公演」したいというのが陣ノ内さんの提言だった。次の集まりまでに、プロットを考えて戴きたいと頼まれた。七月、下山・三鷹・松川と怪事件が続く激動の中で、「人民電車の構成劇」は雲散霧消した。

（人形劇団ひとみ座前代表／つづく）

* * *



稽古にも熱が入る

川崎・市民劇 「池上幸豊とその妻」

熱気いっぱいの

稽古始まる！

京浜協同劇団 水野哲夫

川崎の中興の祖、小泉次太夫、田中兵庫、池上幸豊。幸豊は池上の海を約六年かけて一五町歩（約五四〇〇坪）を拓いて新田を作り、また和製砂糖の栽培と製造方法をあみ出し、貧しい百姓たちを救った人。その幸豊の想いと、生きざまを評伝劇とした「池上幸豊とその妻」（小川信夫作）の稽古が始まって約一カ月たった。

稽古は夜七時から、しかし時刻には皆揃わない。

仕事の都合で遅れてくる者も少なくない。早く来た者はそれぞれストレッチで稽古に備え、皆が来るのを待つ。稽古がこうして遅れるのはアマチュア劇団市民参加の芝居創りの宿命か。演出の香川さんも少しイライラ気味か。それでも七時半には稽古を始められない。欠席する者も少なくないが代役を立てて進めるが、その代役をテキパキ采配してゆくウツちゃん、高橋和紗の機敏な仕事で稽古場の空気を引き締める。

プロローグから稽古。貧しい百姓たちに金を貸した宗兵衛（金貸業）、その取立てから帰るところで借金のかたとして種籾や娘たちを獲っていく。

「助けてくたせえ！」と必死に懇願する百姓たちに「金を返せねいなら質草は当然」とうそぶく。そこへ池上本門寺参詣から帰る名主、幸豊とその妻須磨。

苦勞知らずに育った若き名主はその惨状になす術もなく呆然と立つ。

百姓たちの塗炭の苦しみと怒りを前にして幸豊は

悲痛な叫びや、むなしい百姓のけんか、若き名主の苦悩などスピーディに展開して、この先の舞台の波乱を思わせるに充分なプロローグになってきた。

市民参加一五人、川崎演劇塾、劇団ラニヨミリ、劇団民芸、京浜協同劇団、ポランテア、そして子どもたちも加わり、総勢百名のスタッフ・キャストが京浜協同劇団の稽古場に集まると熱気いっぱい。みんな熱い想いの中で稽古が進んでいく。

★川崎郷土・市民劇★ 池上新田づくりに命をかけた夫婦のロマン

「川崎の海を拓いた 池上幸豊とその妻」

プロと市民の力を集めて贈る感動のドラマ

小川信夫 作／香川良成 演出／城谷護 制作

2008年11月11日（火）夜6時30分 12日（水）昼3時 エポック中原（中原区）

22日（土）昼2時・夜6時30分

川崎市教育文化会館（川崎区）

12月 5日（金）夜6時30分 6日（土）昼2時 麻生市民館（麻生区）

主催 川崎郷土・市民劇上演実行委員会（財）川崎文化財団 共催 川崎市／川崎市教育委員会
平成20年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業

◎文化の仲間通信◎

◆60周年記念 日本のうたごえ祭典 in 東京

全国和太鼓と民舞の祭り お江戸のにぎわい

日程 11月22日(土) 午後五時開演

会場 パルテノン多摩大ホール(多摩センター駅徒歩五分)

料金 指定席三〇〇〇円 自由席二五〇〇円

プログラム 木遣りにぎわい太鼓・ぶちあわせ太鼓・

銚子の早打ち・阿波踊り・傘おどりほか

ゲスト 大地の鼓動・アフリカ音楽 J A M B O /

民族歌舞団 荒馬座

問合せ 実行委員会

〇八〇・六六一七・七四〇二

◆第19回 子どもの未来をひらく川崎集会

人間らしく生きる力を!

日程 11月30日(日) 午前10時〜午後三時半

会場 大戸小学校(JR武蔵中原駅徒歩五分)

参加協力費 五〇〇円 *保育室あり

講演 競争よりも、つながりをめざして! 人間らしく生きる力を! 講師 湯浅誠

分科会 楽しい子育て/小学生の学力作り/今、中

学・高校では/発達困難をかかえる人の現状と課題/不登校・引きこもり/子どもの心とからだ/

公害・環境・まちづくりと子どもたち/地域から

戦争と平和を考える/地域で子どもを育む/人間

らしく生きられる学力を考える

主催 実行委員会 実行委員長 今野鶏三

問合せ 橋本 TEL FAX 〇四四・九四五・五一八六

◆川崎市民劇場第287回例会 劇団民藝+無名塾公演

ドライブング・ミス・デイズ

作 アルフレッド・ウーリー/訳・演出 丹野郁弓

出演 奈良岡朋子・仲代達矢・千葉茂則ほか

日程 12月5日〜12月13日

会場 宮前・幸・多摩・エポック中原の各市民館

アメリカの黒人人種差別が色濃く残るアトラクタ

七二歳になるユダヤの未亡人デイズは一人暮らし

をしていたが、運転していた車で事故を起こしてしま

う。息子のブリーは母を心配して、母デイズ

を説得して黒人のホーク運転手を雇い入れる。黒人

嫌いのデイズは頑として車に乗ろうとしない。し

かし、いつしか二人の関係に不思議な友情が芽生え

て…。

問合せ 川崎事務所 〇四四・二四四・七四八

溝の口事務所 〇四四・八五五・五九一六

◆第16回 合唱団いちばん星 コンサート

うたは歴史(とき)を刻むく「うたごえと日本の作曲家たち」コンサート 大西進作品をうたう

日程 12月23日(土) 午後二時開演(一時半開場)

会場 多摩市民館大ホール

入場料 おとな 九九九円

障がい者・小中高生 三〇〇円

指揮 山寺圭子 ピアノ 梅澤文子

演目 I 合唱組曲『ドナウの記憶』より 河のうた・

小さな祈り・石切り場ほか

II 『心なごむうた・子どものうた』 わたしと小鳥

とすずと・浜辺の歌・おそうじのタンゴほか

III 『百万匹の鮎、多摩川へ』

IV 『川崎と戦争』より組曲「焼け跡のグランドピ

アノ」・愛しき者たちへ・わたしの街から戦争が

見えたほか

問合せ 合唱団いちばん星 代表 岡稔彦

電話 〇四五・五四一・五〇三三

* * *

■文化の仲間ギャラリー■

竹間テル子 ③

